

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士（医学） 氏名 野口 卓郎

	主査	教授	志田 壽利
審査担当者	副査	教授	趙 松吉
	副査	教授	西村 孝司
	副査	教授	平野 聡

学位論文題名

細胞内腫瘍抗原に対する新規抗体療法の開発

本研究は、がん免疫療法における細胞内腫瘍抗原に対する抗体療法の新規概念を提唱したものである。学位審査は4名の審査員により非公開で行われ、申請者の発表後、質疑応答が行われた。

西村教授より、免疫複合体が樹状細胞に取り込まれる際に産生されるサイトカインの種類について質問があった。また、用いている抗体が、MHC class I上に提示されている NY-ESO-1 epitopeに結合し、TCRとのinteractionを阻害する可能性について質問があった。次に、趙教授より、実験群のn数の設定について質問があった。また、今後、PETなどを含めたimagingへの応用について質問を受けた。副査平野教授より、5-FU投与法（bolus投与か持続投与か）と治療効果の関連性について質問があった。また、本研究において治療は2サイクルで終了しているが、さらに治療サイクルを増やすことで期待される抗腫瘍効果の増強についての質問があった。最後に、志田より、NY-ESO-1発現腫瘍担癌患者において、NY-ESO-1に対する自然発生的な免疫応答、特にCD8陽性T細胞応答の程度について質問をした。また、抗体のヒト化などを含めた今後の臨床応用への展望について質問があった。

いずれの質問に対しても申請者は自らの研究内容やその過程で得られた知見、文献的考察を交えて概ね適切に回答した。

今回の研究により細胞内腫瘍抗原に対する抗体療法の新規概念が提唱された。多くの細胞内局在腫瘍抗原に対する特異的 CD8 陽性 T 細胞を誘導する受動的免疫療法として、本研究の概念が臨床的に応用されることが期待された。

審査員一同はこれらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士（医学）の学位を授与されるのに十分な資格を有すると判定した。